

# 長畝ふるさと通信



【2021年5月号】

## ■ 田植え、無事終了しました



5月1日から始めた田植えは、昨年より面積が増えて雨天が多かったせいもあり、およそ1か月かかってしまいました。全国的にコメ余り現象が続く中、国からは「主食用米以外の作付け」に補助金を出すなどして何とかコメの生産量を抑制しようとしています。「このままでは令和3年産米の価格は更に下落し、4年産米はもっと生産調整が厳しくなりますよ～」的な危機感を煽るアナウンスばかりです。組合では行政からの生産調整配分面積はしっかりと守りつつ、地区外からコメ作付けを行わない田んぼの配分面積を買うなどして全体の作付面積を増やしました。新潟県は米どころだと言わんばかりに生産調整を無視して、勝手にコメを作る生産者が他県に比べて多いそうです。結果、需給バランスが崩れ値崩れしているのですが、正直者がバカを見る政策はコロナの営業自粛要請と同じ。自由と身勝手は違います。自由には責任が伴うということを理解せず、国の政策を非難するばかりでは何も解決しないんだけどな～。

WHOで国連事務総長が「世界は新型コロナとの戦争状態にある」って言ったそうですが、戦時中ならオリンピック中止に誰もが納得するんじゃないかと思っているのですが・・・やっちゃうんだろ  
うな・・・

## ■ 新兵器は…



クボタの8条田植え機を新規購入しました。今年から8条田植え機3台体制です。こいつはGPS搭載でハンドルを握ってなくても真っすぐに田植えができるので、オペレーターは「真っすぐに植えないきゃ！」というストレスから解放され、後ろ向きで田植えや施肥の状況を確認することができます。IT農業はこれから益々進化していきますか

ら、無人田植え機登場もそんなに先の事ではありません。メーカーに聞くと田植え機の寿命は一般的にアワメーター（累計稼働時間）で500時間程度だと言いますが、すでに初年度で100時間を超えています。残りの2台の先輩方も650～960時間働いており、新人君も大いに働いてもらうつもりです。決してブラックではなく、大切に扱う結果ですよ。

## ■ 田んぼからSGDsは臭い

これまで使っていた一発肥料（元肥と穂肥の成分が一緒になっており、田植え時には元肥が溶解し、90日後に穂肥が溶解するので肥料散布の手間が省ける）はプラスチック溶剤を使用していたので最終的にはその成分が川から海へ流出して環境破壊に繋がるといわれています。そこで今年から天然有機質を溶剤にした肥料に切り替えました。成分的にはこれまで使用してきた肥料とほぼ同じですが、とにかく臭



い。肥料の粉が衣服に付くと、田植え作業中ず～と臭いとブーイングの嵐でしたが環境を守ることは臭いこと也。